

今月の特集

2

輸血関連副作用

本特集は、輸血検査から少し離れている方々を想定して、輸血副作用の現状を理解していただくため企画しました。輸血の副作用といいますと、不適合輸血による溶血性副作用や血液を介する感染症がまず思い浮かびます。それらは検査の進歩と関連職種の努力により、かなり予防できるレベルになった印象があります。最近では、肺障害など他の副作用が注目されてきています。そのあたりをまず総論的に、次に各論的に執筆していただきました。また、輸血を担当する検査技師は、血液型の検査だけでなく、輸血療法全体の支援として副作用のチェックにも関与が求められる傾向にあります。その取り組みを最後に紹介いただきました。

(山田 俊幸)